

事業計画書

事業名	荒廃農地を活用して野菜作りで地域を元気にする
実施場所	荒廃農地（原2747-2）及び及び原地区センター等公設会場
実施予定期間	※イベントや研修会等の当日だけでなく、準備期間・実績の取りまとめ期間等も含めて記載して下さい。 令和3年 4月 1日～令和4年3月 31日

◎事業概要

※事業の概要を100～200字で簡潔に記載して下さい（事業の紹介などで使用します）。

- ①役員会原則毎週月曜日事務所計画、実施内容確認②全体会毎週水曜園長の指示確認
月間計画や当日の作業、終了後当日反省と次回の予定確認する
- 体験会などのイベントは園長指示で役割分担実施する
- 野菜講座はチラシで参加者募集春と秋に露地栽培の基礎を学習する
- 荒廃農地の再生は、原則通常の作業日以外に実施します、男性が主体的に担当します
- 畑で実際に鋤等農具、耕運機を学びながら種から苗から栽培体験します
畝づくりや間引き、土寄せ害虫対策も実技研修します
- 実習では年齢も男女70代まで一緒に作業人生の学びの場になります
- 野菜の栽培は四季を通して20種以上、収穫は6月から15種類、翌年の春まで
体験する
- 男の料理体験会は夏と冬、有機野菜をテーマに沼津と原で実施します
（令和3年度のステップアップ）
 - ・グループ参加で組織の多様化を図り事業の拡大と人材の活用
 - ・原・浮島連合自治会との交流を深め参加者の増員を図る、参加者昨年比50%アップ
 - ・体験会や野菜講座を通じて会員募集推進
 - ・県と連携して特産品開発、種から苗から試作
 - ・地下水上昇対策と荒廃地の土壌改良
 - ・バターナッツの増産、メニュー開発、地元の高校（県立西高校、市立沼津高校）と連携
 - ・南駿農協との勉強会立ち上げ
 - ・畑で婚活、荒廃地の有効活用

◎目的

※何を目的として実施する事業であるか（事業を行うきっかけ（地域の問題点や課題、社会背景など）や、課題解決のためにどんなことが必要と考えるか）を記載して下さい。

- 見放された農地から野菜畑に再生、荒廃農地の活性化の見本として活用できる
- 野菜づくり体験は家族連れや障害者との共生
- 高齢者の生き甲斐の場とする。参加者が増えることで、もっと多くの福祉施設に野菜提供
- 野菜作りで地域住民との交流の場とする
- 自然環境の活用で多くの人が集まりまちづくりに貢献
- 組織の多様化で継続して組織の発展が期待できる

◎実施内容

日 程	実施項目・作業項目				
	※イベントや研修会等の行事日程だけでなく、実施内容(打合せ・会議・資料作成・参加者募集・準備・検討会)、実施場所、参加対象、人員配置、役割分担など、事業期間すべてにわたる実施内容を記載して下さい。				
4月	栽培体験会 30人	収穫体験会 30人			
5月	トマト、じゃがいも等春夏野菜 30人				料理体験会 3回 60人 7月 1回 地区センター 11月 2回 "
6月	トウモロコシ等夏野菜 30人	50人			
7月	さつま植え付け 30人	ジャガイモ 30人			婚活イベント 30人 3月 1回 農園花畑利用 (荒廃地の有効利用)
8月	夏野菜ゴーヤ等」 —	30人			参加者募集 チラシ配布、広報沼津 新聞 インターネット
9月	秋野菜種蒔き 30人	夏野菜			
10月	種蒔き・植え付け 30人				事業全般 役員会5名で決定 スケジュールは矢部農園長、 粟倉事業部長の指導で会員全 員でチームづくり役割決定し て作業に当たる
11月	種蒔き・植え付け —	50人			
12月	—	50人			
3月	—	30人			
		ほうれん草			
	栽培	収穫祭	料理	婚活	計
計	180人	240人	60人	30人	510人

◎事業効果

※事業の実施により、期待される効果を記載して下さい。			
1. 沼津には後継者不足で放棄された土地が沢山あるが、活用方法の参考になります 2. 野菜作りや畑に関心のなかった主婦、施設の職員、70代の人材が増やすことができる 3. 高齢者の生きがいの場になることを実感している。体験会は家族連れや障害者と共生の場 4. 野菜不足が指摘されているが野菜の持つ本来の力を認識する機会になる 5. 参加者が増えることでもっと多くの福祉施設に寄付できる			
成果指標	※事業効果を客観的に評価できるよう、具体的な数値等を用いて成果指標を設定して下さい。 前年度参加者数 延べ290名(料理60名・体験学習・収穫祭230名)	指標の 検証方法	※左記指標の検証方法を記載して下さい。 前年参加者の75%アップ 延べ510名(料理・体験学習・収穫祭・婚活等)

◎評価の視点に合致していることの説明 ※評価の視点については、募集の手引きを必ず確認して下さい。

<p>公益性 ・ 必要性</p>	<p>※公益性：地域のまちづくりの推進に如何に寄与できるのか、不特定多数の市民の利益にどうつながるのか等について記載して下さい。 ※必要性：事業を実施する意義や、本ファンドによる助成が有益で質の高い事業展開につながる理由を記載して下さい。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 野菜作りはボランティアの心を学ぶ、収穫物を寄付することで理解する 2. グループ活動で協調性も醸成され地域に役立つまちづくりに貢献 3. 高齢化社会の孤立化に有効な活動です 4. 荒廃地の再生活動は環境美化に直結、市民参加の活性化に有効
<p>地域性</p>	<p>※地域の実状と課題をどう捉え、事業を行うことによってどのように課題を解決するのか、また、地域の特性や地域資源をどのように活かしたか、などについて記載して下さい。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 荒廃地を再生してから開拓、産廃の捨て場も解決、環境の美化になった 2. 沼川の周辺にはシラサギやカモなど野鳥が沢山飛来観光地としても人の往来も増している 3. 愛鷹山からの鹿や猪も多くアグリのリ維持には害獣対策にコストがかかる 4. イベントの際には適当な空き地がなく苦慮する
<p>先導性</p>	<p>※事業の新規性や独自性など、新たにチャレンジする点、工夫した点などについて記載して下さい。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 荒廃地を農園やガーデンの再生化は発想や発想の転換で可能実現 2. 活動は障害者との協働を取り入れることで新しい視点も見出している 3. 野外で婚活事業展開として野菜の不能地で花畑に挑戦する
<p>発展性 ・ 継続性</p>	<p>※発展性：活動の広がりや波及効果がどのくらい見込め、地域の発展・活性化につながるのか記載して下さい。 ※継続性：本ファンドによる助成終了後も継続的・自立的な活動とするために、事業実施体制や活動資金の確保などどのように取り組んでいくのかについて記載して下さい。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 新しい品種や西洋野菜の栽培で参加意欲向上 2. ぶどうの房型組織（Cluster Of Grapes）拡大の認知活動 3. 西洋野菜の充実で地域全体に広げる南駿農協と取組中 4. 荒廃地2, 000㎡の再生と利用促進、栽培面積の拡大 5. 活動の継続にはイベント内容工夫と充実で会費を充足していく 6. グループ参加がこれからの課題 7. 先進農地の視察や研修 8. 収穫物の販売工夫
<p>実現性 ・ 妥当性</p>	<p>※実現性：事業目的と事業内容は合致しているか、実現のために事業内容、予算の積算、自己資金の準備、スケジュール等について工夫した点を記載して下さい。 ※妥当性：各種法令順守、関係者との調整状況、費用に対する事業効果の妥当性について記載して下さい。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 計画倒のズレがないよう毎週計画の確認結果と反省を次週に園長より公表 2. 全体会にスケジュールの確認や対策毎週水曜日に行っている 3. 資金対策は継続的に会員の募集特に無料の講座に力を入れている 4. 農地化と六次産業については県農業ビジネス課、土と水については県・市の河川課、土木課、まちづくり課と連携調整を密にしている
<p>活動に対する熱意</p>	<p>※活動の動機、活動に対する意欲・熱意について記載して下さい。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 浮島原地域は沼川と共生しているが30年来の水害に苦しんでいる 2. 水害に対してはボート4艘自宅前に設置対応してきた 3. 発展性が見込まれる地域である、やれば出来る事を唱和して怯まない 4. NPOとしてまちづくりの一環で貢献できると確信12年間取り組み結果として地域活性に着手漸く地域の理解も得られ地域市民になってきた 5. 多地域から住民も多くこの地の歴史文化、開拓の苦労など理解共通認識に役立つおもいで文化講演会を自主企画開催迄こぎ着けた、沢山の応援者が共鳴してくれています 6. 水害に遭って45年目に共通認識にたどり着きました

◎次年度以降の活動予定

※ソフト部門（ステップアップ型）新規または2回目の応募で、助成の継続（最大3年まで）を希望する場合は、今後の活動予定と事業継続のための戦略について記載して下さい（今回の応募が次年度以降の助成を約束するものではありません）。

1. 鹿等鳥獣対策もっばらの課題です、有効な方策と情報の収集、試行錯誤対策講じます
2. 沼川沿いの土地を有効利用バタナツの栽培拡大
3. 野菜づくりの作付面積拡大、ローテーションで稼働日数ふやす
4. 野菜の聖地づくりを企画します
5. 駐車場の確保、地域のみなさんとの交流を密にして交渉続けます
6. 特産品づくりで種と苗の研究
7. 単位当たりの収穫向上、自家製堆肥づくり、栽培基本の励行
8. 露地栽培の向上に酸性雨対策シート等研究テスト

◎実績の評価と改善点（継続事業のみ）

※継続事業については、過去の実績に対する自己評価と実績を踏まえた改善点等について記載して下さい。

1. 荒廃地の地質は栄養分が不安定、野菜の一定量の収穫を確保するに土地の改善を行った
2. 正規の土壌になるまで最低3年かかるので今年が正念場
3. 産廃の処分8割終了、令和3年内を目途に完了する。（耕作地の北側ではあるが、環境整備のためごみの処分を行っている。）
4. 野菜に適した土の搬入、草を乾燥させ裁断散布、土壌改良を年間行い効果上がっている
5. 収穫時期の天候、害虫、灌水などの学習を徹底する
6. 新規参入者にはマンツーマンで実技の指導に当たる
7. 栽培、収穫体験会は農業の楽しさを語り合い次回も参加する工夫を始めている